

平成 28 年度第 2 回庄原市初任者研修会

平成 28 年 6 月 10 日（金） 庄原市立板橋小学校

「庄原市における教育課題を踏まえ、新任教員に対して教育推進上の諸課題等について研修を行い、職務遂行上必要な実践的指導力を養うこと」を目的に、研修会を行いました。

【参加者：小学校教諭 8 名、中学校教諭 7 名、養護教諭 1 名】

【示範授業・事後協議】

「第 5 学年 国語科」 授業者 庄原市立板橋小学校 指導教諭 六原 三枝



【授業参観の視点】

- ①特別支援教育に基づく手立て
- ②生徒指導の三機能を生かした授業づくり

（参加者の振り返りより）

◆児童の反応、姿勢など日頃の学級経営や指導が行き届いていると感じた。「聞くこと、発表すること」への指導を児童ができるまで丁寧にされていた。また、特別な支援が必要な児童に細かい配慮をされていた。私も、一人一人の児童の実態を把握し丁寧な指導を行いたい。

◆この一時間の授業で子供たちに付けたい力を明確にし、その達成のためには、発問を工夫することや実態に合った手立てが必要であることが分かった。

◆学習規律の徹底や「学習の場である」という雰囲気づくりの大切さを実感した。規律ある学びの中で安心して学習し、児童は自己肯定感が高まっていると感じた。

【まとめ】

庄原市教育委員会 教育部 教育指導課 指導主事 岩本 靖代・佐々木 孝

【概要】

- ◆特別支援教育の理念を踏まえ、適切な実態把握のもと、一人一人の児童生徒に応じた支援を組織的に行うことが大切である。
 - ・児童生徒一人一人が学習目標を達成するために必要な手立て
 - ・特別な支援を必要とする児童生徒への手立て
- ◆示範授業において、特別支援教育の視点や生徒指導の三機能に基づいた指導が効果的に行われていた。
 - ・児童実態の分析に基づいた指導の工夫（学習指導案に具体化）
 - ・児童が課題に対する自分の考えをもち話し合う等、主体的に学習していく手立ての工夫（自己決定、自己存在感）
 - ・学習規律の徹底や学び合う姿勢への評価（共感的な人間関係づくり）
 - ・特別支援教育の理念を踏まえた授業づくりの視点と生徒指導の三機能を生かした授業づくりの視点に基づく手立てには、重なりがある。児童生徒の実態に即した授業展開を工夫するために、各視点を関連させて手立てを考え、実践すること。

